Kobe University Repository : Kernel

PDF issue: 2025-07-16

日本の福祉教育の先駆者-糸賀一雄

渡部, 昭男

(Citation)
きらめく120人 : 鳥取市人物誌:40-41

(Issue Date)
2010-01-01

(Resource Type)
book part

(Version)
Version of Record

(URL)
https://hdl.handle.net/20.500.14094/90001621

日本の福祉教育の先駆者

――糸賀一雄

1914―1968
（大正３年）　（昭和43年）

（いとが　かずお）著書に『この子らを世の光に―近江学園二十年の願い』（柏樹社、一九六五年）、『福祉の思想』（日本放送出版協会、一九六八年）など。昭和42年、心身障害者の福祉事業に尽くした功績により、朝日新聞社から「朝日賞（社会奉仕賞）」を贈られた。

「この子らを世の光に」――二一世紀へのメッセージ―

「ＮＨＫスペシャル　ラストメッセージ」（二〇〇六～〇七年）は、二一世紀の日本に伝えるべき「先人からのメッセージ」として、手塚治虫や湯川秀樹らを六回シリーズで取り上げた。最終回に選ばれたのが糸賀一雄・池田太郎・田村一二（いちじ）の「この子らを世の光に」であった。「国中が食うや食わずの窮状にあった昭和21年に設立された、日本初の公的施設『近江学園』。当時のフィルムには、寝食を共にし生き生きと暮らす障害児と職員たちの姿が記録されている。それはまさに『福祉』の原点である」（「ＮＨＫスペシャル」のＴＶサイトより）

「この子らを世の光に」の言葉は、多くの人を惹きつける。「この子らに世の光を」という憐みの思想を、「に」と「を」の二文字を入れ替えることによって、みごとに一八〇度転換している。障害のある人々を世の光として共生する社会を創ろうとの呼びかけでもある。また、個性的な「この子」一人ひとりの人格発達を保障する教育や福祉の実践と施策を求めている。

「情熱を持った人間が歴史をつくる」

鳥取県立図書館は、元国鉄総裁十河信二（そごうしんじ）が揮毫（きごう）し、糸賀に贈ったこの掛け軸を所蔵している。平成４年の同館糸賀一雄顕彰展の際に、親族から寄贈されたものである。

『消シテハナラヌ世ノ光』近江学園創立50周年記念誌編集委員会　1996年／『異質の光―糸賀一雄の魂と思想』大月書店　2005年
『命をつなぐ（抱きしめてBIWAKO）250キロメートル』童心社　2009年ほか　写真「財団法人糸賀一雄記念財団」提供

糸賀は情熱家である。同志と夢を語り合い、行動に移す。

近江学園は児童福祉法の制定以前に開かれ、重症児のびわこ学園は重症心身障害児の規定が同法に追加される前に着手された。糸賀らの福祉教育の試みの後に、施策や法制がようやく整備されていった。糸賀の情熱と行動がなければ、日本はもっと遅れていたであろう。

糸賀を育んだ故郷——鳥取と山陰

【鳥取市立川町】大正3年3月29日、鳥取市立川町に生まれる。

【日進尋常小学校】幼少期は母の故郷米子に身を寄せるが、四年生の途中で鳥取市に再転居。米子の義方尋常小学校から転入。吉方温泉町にあった「一ノ湯ホテル」の中島達一郎とは、ともに二中に進学した仲である。

【鳥取第二中学校（鳥取東高）】大正15年に第四期生として入学。初代の**林重浩**校長の示した自由な理念の校風、師弟が一体となって学校を創る草創期の覇気が糸賀らを育んだ。中学は五年制であったが、昭和5年、四年生終了時に糸賀を含む九名が高等学校に進学した。

【日本基督教団鳥取教会】医師志望の糸賀は松江高等学校（島根大学）の理科に進学。結核を患い、休学し悩む。中学から親交のあった圓山文雄の影響もあって、在学中の昭和7年に受洗。教団の活動で小迫房と出会い、京都帝国大学文学部哲学科に入学した翌昭和11年に結婚。一方、冬山の遭難事故で親友の圓山を喪う。

【鳥取第四〇聯隊】昭和13年、大学卒業後に京都市第二衣笠尋常小学校の代用教員となる。14年、召集され陸軍歩兵二等兵として入隊。鳥取砂丘などでの訓練でほどなく発病し、召集解除。15年より縁あって滋賀県に奉職。若くして知事官房秘書課長を務め、近藤壌太郎知事の薫陶を受けた。戦後、先駆的な福祉教育を滋賀の地で展開。

【因幡一碧】糸賀の筆名。因幡の沖合に広がる日本海の一面の碧さに深く思いを寄せ、酒席で口に上せる歌も山陰地方の民謡が多かった。湯治を兼ねて時々訪ねたのは、東大山を遠くに望む関金の鳥飼旅館であったという。

【顕彰碑】滋賀県は糸賀一雄記念財団を置き、記念賞も設けている。一方、鳥取には倉吉の皆成学園に小さな石碑があるのみだ。「とっとり県民の日記念事業フォーラム　日本の福祉教育の先駆者　糸賀一雄」（鳥取県主催〇六年、於鳥取市）、「糸賀一雄氏　没後四〇年の集い」（日本特殊教育学会主催〇八年、於米子市）などが続いており、二〇一四年の生誕一〇〇年を控えて顕彰機運が盛り上がろう。

〔渡部昭男〕

参考　『糸賀一雄著作集（Ⅰ～Ⅲ）』糸賀一雄著作集刊行会　日本放送出版協会　1982～83年
『糸賀一雄（シリーズ福祉に生きる5）』大空社　1998年／『この子らを世の光に—糸賀一雄の思想と生涯』日本放送出版協会　2001年